札幌地区労連ニュース

〈発　行〉
札幌地区労働組合総連合
発行者　木村　俊二
札幌市東区北９条東１丁目２−２２
TEL557−8481　FAX557−8482

心身ともに元気に働き続けるために
ケアレイバーキャンペーン活動に全力

写真右端が津崎雅美さん

今年２月、看護介護で働く職員への処遇改善として国の補助金制度ができました。しかし、その対象は限定的で不十分なものでした。多くの職員がそれぞれの役割と立場で、この制度に複雑な心境を抱いたことでしょう。私は「私たちの働きを認めてもらえてない」そんな風に感じ、落胆しました。その感情を伝えたい、多くの人に現状を知ってもらい苦境を変えたいと思い、働く仲間に呼び掛けています。

私は診療所の看護師として働いています。新型コロナウイルスが流行り始めた頃から、町内で唯一の発熱外来を開設し、診療を行っていました。当初は発熱外来を行う医療機関が少なく、遠方のＰＣＲ検査センターへ行く事ができない患者さんの受診を守るために開設しました。看護師は、半数が労働時間限定の非正規職員です。新型コロナウイルス到来以前から、二人しかいない正職員には、大きな負担がありました。休暇取得は極めて困難です。そこに新型コロナウイルスが発生したことから、更に大きな重圧がのし掛かりました。正職員がどちらか一方でも休職することになると、発熱外来は疎か、一般診療までも開業することができません。それは地域患者さんの受診や治療への遅れに繋がります。そのため、業務中の感染対策に気を配りました。看護師は許可が下りず、防護服着用できなかったことが不安を増長させました。私生活でも感染対策を徹底し、家族とも距離を置き、体調管理をするだけでも精神的に休まる時がありませんでした。感染拡大時期には全職員が、処理できない業務量と休息時間が十分に確保できないことで、疲労が蓄積していきました。一般診療の患者さんも発熱患者さんも訪問診療の患者さんも、私たち医療者にとっては大切な患者さんです。限られた人数と時間の中で奮闘しました。しかし、全ての患者さんが満足される対応は難しく、理想と現実の狭間で、常に葛藤を抱えていました。協力依頼をした他の医療機関や役場、訪問看護すべてに断られ、やり場のない虚しさに苛まれていました。

そこで労働組合へ声があがり、補助金から発熱外来で働く職員への手当て支給することを町へ要請しました。町からは『補助金の使徒として手当て支給は可能。院所から申請があれば、手当て支給分を補助金へ追加することも可能。』と回答されました。地域社員さんからの賛同署名を集め、労使交渉を重ねましたが、職員への手当て分の申請はしないという回答でした。落胆している最中、看護師の処遇改善として国の補助金制度ができたことを知りました。しかし、その対象は２００件以上の救急搬送を受け入れる病院で働く看護師に限られていました。看護の役割は救急搬送を受け入れる病院に限らず、多岐にわたります。自宅療養中の陽性患者さんのみならず、在宅で療養する全ての患者さんが相談できるのが、診療所の看護師です。私たちは、家族背景や生活習慣、患者さんの取り巻く環境を把握し、最善の方法を考え援助します。患者さんがその人らしく、安心して療養生活を送るための大事な役割だと考えています。働く場所の違いで処遇を変えるということは、そこで働く担い手を減少させ、職員の偏りを生じさせます。働く職員の分断も生みます。働く意欲の低下や離職の一因となり、人手不足にも拍車がかかります。私の診療所では、今年４月、診療体制変更と看護師１名の退職を期に発熱外来が継続できなくなりました。それから数ヶ月が経ち、医療者としての責任を果たしたいと、方法を変えて少しずつ発熱患者さんの対応を行い始めました。医療は１人では成し遂げられません。どの医療機関であっても、どんな職種であっても、退職せずに働き続けられる賃金にして欲しいと切に願います。

そして私は今、ケアレイバーキャンペーンのコアチームメンバーとして活動しています。ケアレイバーとは、医療・介護の現場で働くすべての職員のことです。『#すべてのケアレイバーの賃金アップ』『#ケアレイバーのモチベをあげるベア』を掲げてＴｉｋＴｏｋやＴｗｉｔｔｅｒでＳＮＳ発信するというキャンペーンを決めました。同じように悔しい思いをしている方はいませんか？家族や職場の同僚、学生時代の友人など、処遇改善の対象とならずに悲しい思いをしている医療・介護従事者が周りにいるはずです。このキャンペーンで多くの声があがり、日本中の方々にその声が届くと、制度が変わることも夢ではないと私は信じています。

医療・介護で働くすべての職員が、心身ともに充実して元気に働き続けるために、分断の無い処遇改善を目指しましょう。

（勤医労当別支部執行委員・津崎雅美）

職場の事務・用務パートは最賃近傍
組合に結集し、スト回避基準の引き上げをめざす

石崎龍之介さん

わたしが働く職場のパート事務・用務職員の時給は最低賃金近傍です。

わたしたち勤医労は春闘で「何らかのベースアップ」をストライキ回避基準に設定しています。ここ５年ほど法定の最低賃金は約３％の上昇で推移しています。春闘で法人は、約３％の上昇を見越して10月から最低時給を９１８円とすることを回答しました。６月に賃金交渉は妥結となりましたが、最低賃金は法人の想定を超えて上昇して９２０円となり、10月以降最低賃金を割ることが分かりました。

そこで勤医労は、時給改善の要求書を法人へ提出しました。法人からは法令順守で時給を最低賃金同額に引き上げることが回答されました。

この事から、わたしが考えたことですが、法人は当然法律を守りますが、わたしたち労働組合はそれ以上を求め続ける必要があるということです。

勤医労が「何らかのベースアップ」を回避基準に設定して以降、法人は最低時給を最低賃金ギリギリの回答をする事が多いです。法律を守る姿勢はわかります。法律を当たり前のように守らない会社を見てきたのでその姿勢は良いと思います。しかし、パート職員がいないと体制が守れず経営が成り立たない現状において、パートの事務・用務職への評価があまりにも低すぎます。現にパートの方の長期不在や退職があると仕事が圧迫され支障が出るので、パート職員に大変助けられています。

また、求人サイトに募集を出した際、担当者から「この金額じゃ人は来ない」という旨の話をされた事があると聞いています。つまり、「賃金（評価）が低いから退職・転職しよう」「最低賃金だから就職しないでおこう」という悪循環が生まれます。

しかし、私の職場には労働組合があります。法律を守るギリギリの最低賃金ベタ付け以上の賃金水準を要求できます。次回の春闘では、最低賃金ギリギリではないベースアップを勝ち取れるように、ストライキ回避基準の引き上げなどを考えていきたいです。

（勤医労歯科支部執行委員・石崎龍之介）

最賃宣伝行動
給料に直結する最賃引き上げは切実

9／28宣伝

働く人の給料に直結する最賃。結婚し子を持つまで正直自分の賃金なんて深く考えたことも無い。政治や世の中の全てに良くも悪くも、無関心でした。そんな私が、深く考えるようになったのは恥ずかしながら結婚し子を持ち家計を支えようと働き始めてからでした。

つい昨日の出来事です。ずっと延期されていた遠足があり子供と近所のスーパーへお弁当のおかずを買いに行った際、「ウィンナーが食べたい」と子供に言われて商品をみたところ、値段も体感的に20円くらい上がっており内容量も減っていました。

結局、入れてほしいと言われたキャラクター付きのウィンナーは、他と比べて高く内容量も少ないので、安い方にして、他で工夫をしましたが、「もう少し私の給料が多ければと…」思うばかりです。

今年の最低賃金引き上げ額は31円となりました。過去最大の31円。出口のみえない物価高や円安。10月以降、都道府県ごとに最低賃金は引き上げられたとしても、ほとんどの地域で政府が目標に掲げている１０００円には届きません。必要最低限の生活に必要な最低賃金は１５００円と言われています。働く人の賃上げは望む切実な願いです。

（最賃宣伝で代読されたさっぽろ青年ユニオン組合員の声）

ウクライナ侵攻・ミャンマー弾圧…あらゆる戦争に反対する駅前集会

反戦スピーチ、ライブパフォーマンス
011ANTiWAR

ロシアのウクライナ侵攻やミャンマー国軍による弾圧など、世界のあらゆる戦争に反対する集会「０１１ＡＮＴｉＷＡＲ」が８月14日、札幌駅南口広場で開かれました。約１５０人が反戦スピーチやライブパフォーマンスに耳を傾けました。準備したチラシ９００枚はあっというまになくなり、８万円を超える募金が集まり、この様子は北海道新聞で報道されました。

５歳の時に被爆した金子広子さん（札幌）は、戦後やっと一緒に暮らせるようになった母との思い出を語り、「もう二度と、こういう核を使うような戦争は、もう起こっちゃ絶対にまずいことです」と訴えました。

ウクライナ出身のセルヒ・ゴボロブスキーさんは、「残念だが、戦争は来年も続く。ウクライナにさらなる支援を」と求めました。

ミャンマー出身のトゥンさんは、「私が死んでも抗議運動は続けて」と言い残した14歳、妻に止められてもデモに参加し殺された青年など、夢や希望を持ち民主主義のためにたたかった一人一人の言葉を紹介しました。

反戦を訴える道内のミュージシャン４組がライブパフォーマンス。さっぽろ青年ユニオンの組合員でもある、ラッパーの佐々木良樹さんが大トリをつとめ、「戦争反対！」のシャウトを真夏の青空に響かせていました。

参加者からは「刺さるスピーチと爆音をありがとう！」「昨日はありがとうございました！」「長丁場でしたが、内容が充実していて負担感が全然なくてすごい！と思いました」「主催は大変だったと思います、企画していただきありがとうございました」「おつかれさまでしたー。やっぱバンドいいですね」など感想が寄せられました。

運営メンバーの振り返りミーティングでは、「配布するチラシをステッカーにしてはどうか」「事前リハーサルもできたらよかった」「募金先を明確にすることが大事」など、次回に向けたアイデアがたくさんあげられました。

集会には、さっぽろ青年ユニオンの組合員７人が参加しました。

日増しに高まる「国葬」反対の声
地区労連が秋元市長の参加中止を申し入れ

９月27日の安倍元総理の「国葬」に反対する札幌市民の声が大きく広がっています。

戦争させない！総がかり北海道委員会は９月19日の総がかり行動で国葬反対の意思表示を行ない、国葬前日の26日には「国葬反対」に限定した退勤時集会を行いました。

27日当日にも北海道憲法共同センターが昼休み宣伝を行いました。

国葬反対は世論調査でも多数を占めており、札幌市民からも反対の声が上がっています。

札幌地区労連はこうした国民の多数の反対があるなか、９月26日、札幌市長に国葬参加の中止をもとめる要請を行いました。

秋元克広札幌市長は、公務で国葬に参加することを表明し、公費で参加するとしています。また、「弔意の強制はしない」と言っていますが、本庁舎には「半旗を掲揚する」と表明しています。

秋元市長に対する要請で赤坂議長は「国民から様々な懸念や批判があり、16億６０００万円もの国費を支出するなら、コロナや円安の中で大変な生活を強いられている労働者や暮らしを守るために使って欲しい」と訴え、秋元市長の国葬参加中止を強く申し入れました。

要請内容について、木村事務局長から、①安倍元総理の国葬参加を中止すること。参加するというなら私費で個人として参加すること。②札幌市として市民に弔意を強要しないこと。市庁舎などへの半旗は掲揚しないこと。③札幌市教育委員会に対し、教職員をはじめ子どもへの「弔意の強制」はしないよう市教委に要請すること。以上３点を要請しました。

対応した城戸崎泰宏札幌市総務局行政部長は、秋元市長の参加については国から「国の儀式」として案内があったので公務で参加する。費用は公費となる。市民に対して弔意の強要はしない。しかし、これまで内閣総理大臣が亡くなったときの慣例として「半旗を掲揚してきた」ので今回も行う。職員や市民には黙祷など弔意の強制はしない。教育委員会とも意見交換や情報交換をしているが今回は子どもへの強制はしないと聞いていると回答。

参加した、道教組の新保裕書記は安倍元総理の家族葬の時には帯広などいくつかの学校現場で職員に説明なく半旗が掲揚された事実を示し、再度強要しないよう要請しました。佐賀事務局次長が市長が参加する条例などの法的根拠があるのかを質問したのに対し、「ない」と応えましたが、過去の総理大臣が亡くなられたときは弔意を示してきたと回答。参加者からは市の回答では全く納得できない。国葬反対の市民の声を秋元市長に伝え再度検討するよう求めて要請を終えました。

要請終了後、マスコミへの記者会見を行いテレビ局２社、新聞２社が参加し次の日に放映・報道されました。地区労連からは赤坂議長、木村事務局長、佐賀事務局次長、道教組から新保さんが参加しました。

「組織化」重点に
札幌地区労連新役員紹介
事務局次長 佐賀正悟さん

今年度より札幌地区労連の事務局次長の任務につきました。みなさん宜しくお願いします。活動範囲が広がることから、本業の勤医労では書記長を降りて書記次長になりました。

わたしは18歳の時、高卒で就職できず、叔母の紹介で４年７ヶ月の期間、非正規職員で働きました。田舎から札幌に出てきて８７０円の時給で一人暮らしは大変で、給料日前は財布には千円札一枚、もやしばかりを食べていました。時間はあってもお金がない日々を過ごし、冬の日曜日は灯油代を節約するために一日中布団から出ないで過ごしていました。転機になったのが労働組合でした。職場の組合に加入して声をあげ、当時同じように働いていた臨時職員がみんな正職員になりました。労働組合ではなにより、互いに励ましあって一緒に活動できる仲間の存在に支えられました。こうした経験を踏まえて、労働組合にできることを広く知ってもらうために専従になりました。

札幌地区労連では、「組織化」を重点に活動します。「組織化」と聞いて、みなさんはどんなことをイメージするでしょうか？

わたしがイメージしている「組織化」は、①いま労働組合のある職場の組合活動を活発にすることと、②労働組合のない職場に労働組合をつくることです。そのために、活動サポートとトレーニングに力を尽くしたいと思います。

「活動する上で、どんな場面に困難を感じていますか？」「職場で今、解決したい緊急の課題は何ですか？」「一緒に活動する仲間をどうやって見つけますか？仲間とどうやってチームをつくりますか？」「目的と手段は一致していますか？」などなど、こうした視点でみなさんと一緒に活動していきたいと思います。地道にコツコツと組織化に取り組みますのでよろしくお願いします。

STOP再稼働!
さようなら原発北海道集会
10／10 月
13:30～15:30
大通公園西8丁目広場

集　会　13:30～
デモパレード　14:30～